

東近江圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会 第2回協議会 報告

日時：平成21年11月26日（木）14：00～16：00

場所：東近江合同庁舎3階 3-C会議室

1. 開 会

会長の上山近江八幡市副市長より開会のあいさつをいただきました。

2. 議 事

(1) 上半期の取り組みと今後の予定について

事務局説明

第1回協議会で承認された検討項目のうち、「水害に備える意識の高揚」、湖辺域の「家畜の避難」について報告を行いました。

水害に備える意識の高揚に関する検討については、知恵・水害文化の収集・発信として、12の集落で実施した聞き取り調査の結果や、収集した情報の発信方法としてマップやホームページの作成状況、水害体験者による講話の実施状況を、出前講座の試行として、2つの集落で実施した結果を報告しました。今後も聞き取り調査や出前講座を継続していくことを提案しました。

また、家畜の避難に関する検討については、大中地区の牛の避難に係る試算結果や危険水位への到達状況、WGで整理された避難に関する課題について報告し、今後の検討方針案として、畜産業に対する減災対策の視点を追加すること、JAの方等にWGへの参加を求めることを提案しました。

質疑応答・意見交換

上半期の取り組みについて、各委員から様々な意見が出ました。以下に、主な意見を箇条書きで示します。

- ・ハザードマップと今回作成するマップの浸水状況は異なっているものと思われるが、配布時に混乱しないか。
- ・出前講座について、水害対策や水防活動などの専門用語についてどれだけ理解できているか確認してはどうか。
- ・出前講座のアンケート結果は、年齢層によっても異なることもあり、更に詳細に分析する必要がある。どのような背景があって、このようなアンケートになったかを整理する必要があるため、そのまま捉えるのではなく、参考として対策を検討する方がよい。
- ・昨年の段階では、家畜の避難ができないということを定量的に分かっていなかった。今回の検討は定量的に示されたことは重要なことであると考えられる。
- ・家畜の避難は現実的に不可能と考えられることから、検討をやめることを考えるべき。
- ・水害によって人命が失われることのないような街づくりが本協議会の第一の目的であるとする、人命保護の観点を最優先とするべきではないか。
- ・下半期の検討では、地域の重要な産業である畜産業について、牛の避難、被災からの回復という視点から考えてもよいのではないか。



結 果

これらのご意見を踏まえつつ、下記のとおり実施していくことになりました。

- ① 水害に備える意識の高揚を図るため、8集落の聞き取り調査と3集落の出前講座を実施する。
- ② 牛を中心とする、畜産業の減災対策を検討する。

(2) 下半期の新たな取り組みについて

事務局説明

①「地域の危険状況に合わせた避難判断水位の設定」として、日野川と愛知川において地点別の避難判断水位の設定に取り組むこと。②地域の実情に応じた減災対策を進めていくため、行政担当者その他、住民代表を含めたメンバーによる新たなWGを設置し、日野川中流域をモデル地区として設定し、「水害に強い地域づくり計画（原案）」の策定を進めること、また、組織改編ならびに住民代表をメンバーに含めた新たなWGの設置に伴い、規約を改正する必要が生じたため、以下の規約改正（案）を提案しました。



【修正前】

第2条 協議会は、東近江地域振興局管内の2市3町が、・・・

第3条 5 会長は、協議会の下部組織として、行政機関による担当者会議やワーキンググループを設けることができる。

【修正後】

第2条 協議会は、東近江土木事務所管内の2市3町が、・・・

第3条 5 会長は、協議会の下部組織として、担当者会議やワーキンググループを設けることができる。

質疑応答・意見交換

下半期から新たに取り組む項目について、各委員から様々な意見が出ました。以下に、主な意見を箇条書きで示します。

- ・リアルタイムにとっているテレメータ水位の地点だけが浸水しているわけではない。是非検討頂きたい。テレメータ水位のみに頼るのではなく、地元の人からの情報も含めて情報を相互に共有できる手段を考える方法も考えた方がいいのではないか。
- ・汜濫計算に関しては、琵琶湖の水位変動は考えていないのか。同じ200年確率でなぜ結果が違うのか。
- ・水害に強い地域づくり計画WGについて、第1回協議会で合意した検討項目整理表との整理が必要。

結 果

すべての提案内容について承認を得ました。いただいたご意見を踏まえて実施していきます。

3. 閉 会

事務局を代表して流域治水政策室の西嶋室長から閉会のあいさつを行いました。